

日本初の本格的英和辞書『英和对訳袖珍辞書』

「英和对訳袖珍（しゅうちん）辞書」は、1862（文久2）年刊行の日本初の本格的英和辞書である。本学では66（慶応2）年改正増補版の第2刷（慶応3年）を所蔵している。

「袖珍」とはポケット型のものという意味。しかし縦16センチ、横23センチ、厚さ9センチの形態は、木枕に似ているところからそう呼ばれていたという「枕辞書」の方がしっくりくる。

初版の編纂（へんさん）主任の堀達之助は、オランダ通詞でありながら英語も学び、53（嘉永6）年、ペリーの浦賀沖来航時に黒船に向かって“I can speak Dutch!”と叫んだ人物として知られる。本書が編纂された時代背景には、このような蘭学から英学への移り変わりがあった。収録語のBeltは「携帯石帯ノ類」、potは「壺徳利（つぼどっくり）」と訳され、英語は横書き、訳語は縦書きである。当時に思いを馳せながらページをめくる楽しみがある。

（初出「神奈川新聞」2014年6月30日付）



本学図書館貴重資料 『英和对訳袖珍辞書』